

|           |                        |      |    |    |
|-----------|------------------------|------|----|----|
| 講義名       | 経営管理論B（経営学科 2年生+3年生以上） |      |    |    |
| 担当教員      | 柿沼 英樹                  |      |    |    |
| 開講期・曜日・時限 | 後期 金曜日 2時限             | 授業形態 | 講義 |    |
| 履修開始年次    | 2年生                    | 単位数  | 2  | 備考 |

**主題と概要**

経営管理の大まかな全体像を学んできた経営管理論Aを発展させて、経営管理のもう少し細部の様相を捉えることに取り組む。具体的には、経営管理に関する応用的な論点（例：フォローアップ、組織間関係、国際化）や、近年注目が集まりつつあるトピック（例：プラットフォーム企業、サービス・マネジメント、CSVやSDGs）を取り扱い、これらについて概説する。また、企業事例を取り上げながら、学んだことが実際にどう使われているのかについても理解を深める。

**到達目標**

- (1) 経営管理における応用的・現代的な課題と、それらに対する取り組みの概要を理解している。また、「起業」および「起業家（企業家）」に関する知識が深まるようになる。
- (2) 具体的な事例について、学んだ内容を踏まえて分析できる。また、独立するだけでなく、企業に就職しても求められる「事業構築力」を磨けるようになる。
- (3) 起業家（企業家）の実像を知ることができるようになる。

**提出課題**

- ・毎回の授業において、その日の内容に関する小テストを実施する。
- ・授業の内容と関連つけた論述を求めるレポート課題を、2～3回程度提示する。

**課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック**

- ・授業回ごとの小テストについては、授業内にて解答の提示と補足解説を行う。
- ・レポート課題については、締切後の授業にて全体向けにフィードバックを行う。

**評価の基準**

- ・授業回ごとの小テスト20%、レポート課題20%、定期試験60%（詳細については講義内で指示する）

**履修にあたっての注意・助言他**

- ・柿沼が担当する経営管理論AおよびBは、A（前期）が基本的内容、B（後期）が応用的内容という大まかな区別をもって設計されている。しかし、経営管理論Bの履修にあたって、経営管理論Aの履修・単位修得を必須条件とはしない。

|     |         |  |  |  |
|-----|---------|--|--|--|
| 教科書 | .使用しない。 |  |  |  |
|     |         |  |  |  |
|     |         |  |  |  |
|     |         |  |  |  |
|     |         |  |  |  |

**プリント資料及び参考文献**

< 講義資料 >  
 授業回ごとに RYUKA Portal にアップロードするので、各自で確認すること。  
 < 参考文献 >  
 各授業回において適宜提示する。

**授業計画**

- 第1回 経営管理論Bで学ぶこと：講義の全体像や進め方、評価方法など
- 第2回 新たなリーダーシップ像：エシカル、オーセンティック、システマティック
- 第3回 フォローアップ：フォローからみたりーディング、フォローアップ行動
- 第4回 組織と個人の意思決定：意思決定モデル、バイアスとヒューリスティック、グループシンク
- 第5回 チーム・集団・グループダイナミクス、コミュニケーション
- 第6回 コンフリクト・マネジメント：組織内コンフリクトの源泉、コンフリクトの解消策
- 第7回 組織学習：個人的な学びと組織的な学び、知識創造
- 第8回 組織間関係：協力的提携、ネットワーク組織
- 第9回 ベンチャー：ベンチャー企業の特徴、アントレプレナーとアントレプレナーシップ
- 第10回 プラットフォーム企業：ビジネス・エコシステム、フリーミアム、ネットワーク効果
- 第11回 国際化のマネジメント：国際化の動機、多国籍企業の特徴、日本企業の国際展開
- 第12回 サービス・マネジメント：サービスの特性、顧客志向、価値共創
- 第13回 企業の社会的責任：CSR、CSV、SDGs
- 第14回 経営管理のさらなる課題：パラドックスやジレンマのマネジメント、組織の視点と個人の視点
- 第15回 全体のまとめと補足解説：経営管理論Bの全体像の再整理  
 定期試験

**授業形態（アクティブ・ラーニング）**

|                                      |  |
|--------------------------------------|--|
| ア：PBL（課題解決型学習）                       | イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） |
| ウ：ディスカッション、ディベート                     | エ：グループワーク                                  |
| オ：プレゼンテーション                          | カ：実習、フィールドワーク                              |
| キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合） |  |

**準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間**

< 予習 >  
 講義資料を通読し、その授業回の主なトピック、キーワードを確認しておくこと。30分程度。  
 < 復習 >  
 講義資料には概略のみを記載しているため、参考文献を必要に応じて参照しながら詳細を補充すること。  
 また、各種メディアでの企業経営に関する報道に触れ、講義で学んだことが実際の企業経営や自身の職業生活にどのように役立つのかを考えること。合わせて90分程度。  
 これらのほか、レポート課題に関する取り組みに合わせて30時間程度を要する。

**卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連**

「企業経営や組織、業界動向にかかわる、より現代的な知識・理論の習得」と、「それら知識・理論を使った現状分析の実施」を達成するための科目である。

**双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述**

- ・小テスト課題やレポート課題は、respon などのオンラインツールを活用して実施する。
- ・授業内での発言（またはオンラインツールへの書き込み）を求めることがある。積極的な授業参加を期待する。

**実務経験の有無及び活用**

**備考**

- ・新型コロナウイルスの感染者または濃厚接触者に指定された場合は、通学禁止期間の授業をオンデマンド形式で受講し、課題提出できるようにする。その方法については、当該受講者に対してその都度案内する。